

EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(2)(HP 収載) -DECCA カーブと TELDEC カーブ-

1. 始めに

前報(1)の方針を受けて、DECCA カーブと TELDEC カーブの盤に対応するトーンコントロールの調整を検討します。

2. トーンコントロールの調整方法

配線は以下のように Leak Point1 をラインアンプとして介在させ、トーンコントロール機能を活用します。

LINN LP-12→ZANDEN Model120→Leak Point 1(ライン入力)→TruPhase
今回は、DECCA カーブと TELDEC カーブに対応するトーンコントロールの調整で調整の方針は前報(1)の Table B に従い、手順としては、まず Leak Point 1 のトーンコントロールを中心位置にして ZANDEN Model 120 の本来のイコライザーカーブで聴いておき、ついで RIAA で再生して本来のイコライザーカーブの音に近づけるよう Leak Point1 のトーンコントロールを調整します。

使用するアナログ盤は次のものです。レンジが広く倍音も豊かなピアノ曲で、イコライザーカーブの異なる同じ曲を選んでみました。

LONDON SLC 1331

ベートーヴェン ピアノソナタ 18 番
ウイルヘルム・バックハウス (ピアノ)

ドイツグラモフォン MG 9542

ベートーヴェン ピアノソナタ 18 番
ウイルヘルム・ケンプ (ピアノ)

3. トーンコントロールの調整結果

バックハウス盤は DECCA、R、第 4 時定数 Mid ですが、位相と第 4 時定数は固定しておいて、DECCA と RIAA を切り替えます。DECCA で聴いておいて RIAA にしますと、全般に音に締まりがなくぼやけた印象で、高音はキャンつきます。そこで前報(1)の Table B を参考に Leak Point 1 のトーンコントロールの Bass と Treble を上げておき、Bass を 3 時に、Treble を 3 時にしますと、低音の緩みはなくなり、高音のアタック感も向上します。

ケンプ盤は TELDEC、R、第 4 時定数 Mid ですが、位相と第 4 時定数は固定しておいて、TELDEC と RIAA を切り替えます。TELDEC で聴いておいて RIAA に

しますと、低音はそれほど違和感はないのですが、高音から中音の締まりがなくキャンつく傾向があります。そこで前報(1)の **Table B** を参考に **Leak Point 1** のトーンコントロールの **Treble** を上げていき、3時程度にしますと、音に締まりがでてキャンつきが収まってきます、

4. まとめ

イコライザーカーブが **RIAA** でない盤を **RIAA** で再生した場合の違和感を **Leak Point 1** のトーンコントロールを調整することで、一定程度カバーすることができました。

以上